

みえるものと みえないもの

2020年9月18日(金) - 27日(日)

J R宇和島運転区扇形車庫ギャラリー

この度、床下土風は、J R四国宇和島運転区扇形車庫再生準備事業として、1941年に竣工した扇形車庫をギャラリーとして活用した「みえるものとみえないもの」展を開催いたします。

その場に何かを通すことで見えなかったものを見ることをテーマとした本展覧会シリーズの第一回となる今回はインスタレーション作家の現代アーティスト中島崇とキュレーターのタムラ・マサミチを迎えて、ストレッチフィルムを用いた現地制作による展覧会を開催いたします。



やわらかな光線が差し込む広い車庫の空間は、アーティストやクリエイターの創作意欲を刺激する個性的な展示空間としての素晴らしい可能性を秘めています。人々の記憶に深く刻まれてきた歴史的建築であるこの車庫跡地を市民の場所へ再生するプロジェクトの第一弾として、本展覧会では長い時間を経たこの建物の光と時間に向き合います。

展示タイトル：みえるものとみえないもの

日時：2020年9月18日(金) - 27日(日) 11:00-16:00 ※会期中無休

会場：J R宇和島運転区扇形車庫ギャラリー
(愛媛県宇和島市錦町10-6)

入場料：無料

交通案内：J R四国・宇和島駅より徒歩3分(駅より案内板があります)

主宰：床下土風

後援：J R四国、宇和島市観光物産協会、宇和島市、伊予銀行、隈研吾建築都市設計事務所

企画・総合キュレーション：新津保朗子(床下土風)

展示キュレーション：タムラ・マサミチ(artport)

作品制作：中島崇

※ 会場には立入禁止区域がございます。ご来場の際に現地の会場案内をご覧ください。

■アーティスト



中島崇（なかじま・たかし）

現代美術作家。東京出身大田区在住。1994年桑沢デザイン研究所写真研究科卒業。2001年ドイツ・ベルリン在住。帰国後、大規模な空間作品を美術館や芸術祭、ギャラリーにて発表を続けている。ストレッチフィルムを用いる近年の活動では、寺田倉庫、3331 アーツ千代田、象の鼻テラス、大田区京浜島、洗足池、SHIBAURA HOUSEなどで公共空間や建築とのコラボレーションを手掛けている。

nakajimatakashi.net

■ JR 四国宇和島運転区扇形車庫再生準備事業について

宇和島とその周辺の人や地域の交通を1941年（昭和16年）から守り続けてきた宇和島運転区扇形車庫は、長い間市民に親しまれてきました。明治時代にイギリスから輸入されたレールが使われた車庫棟の周辺には、桜をはじめとした樹々が自由な枝ぶりで育ち、敷地を囲み流れる川は夏には蛍が飛び交います。

このような自然と文化的な素質に恵まれた環境にありながら、この扇形車庫は老朽化のために維持が困難な状況に置かれてきました。「JR 宇和島運転区扇形車庫再生準備事業」は、この場所を再び多くの市民に親しまれる拠点へと再生するためのプロジェクトです。

この扇形車庫を文化の発信・交流拠点となるギャラリーに、そして、車庫前に広がる平地を緑豊かな市民の憩いの場に生まれ変わらせることを目標として、このプロジェクトは松山市中島と京都で地域を運営してきたデザイナーが、宇和島市民を初めとして様々な人々の協力を受けながら企画を行い、自律した文化拠点と公園の運営を開始することを目指しています。

この展覧会をギャラリー創設のための第一回目のプログラムを皮切りに、2020年～2021年度の二年間は様々な専門家と運営体制の構築のための試みを準備プロジェクトとして進める予定です。

■ 今後の予定

2020年～2021年度 ギャラリー事業立ち上げ

2021年度秋 第二回展覧会、公園化事業、花見、原っぱ整備、蛍の川整備 等

■ お問い合わせ

床下土風 yukashita-tsuchikaze.jp

代表・新津保 info@yukashita-tsuchikaze.jp